

＜第3回 江戸東京きらりプロジェクト推進委員会＞

江戸東京きらりプロジェクトにおける取組について

平成29年4月18日

本日の進め方

I 江戸東京きらりプロジェクトについて (確認)

II 意見交換

1 モデル事業選定の視点

2 モデル事業の支援方法

(1) 磨き上げ支援

(2) 発信支援

III 技の継承等に向けた提言の方向性について

(説明／次回議論)

I 江戸東京きらりプロジェクトについて

(確認)

プロジェクトの目的

「江戸東京きらりプロジェクト」は、

- 東京の「宝物」である老舗企業等の優れた産品に光を当て、磨き上げを通して付加価値を高めるなど、先導的・創造的な活動を後押し
- 磨き上げられた「宝物」を新しいライフスタイルとともに、東京から世界に発信し、共感を得ていく

目指すところは、

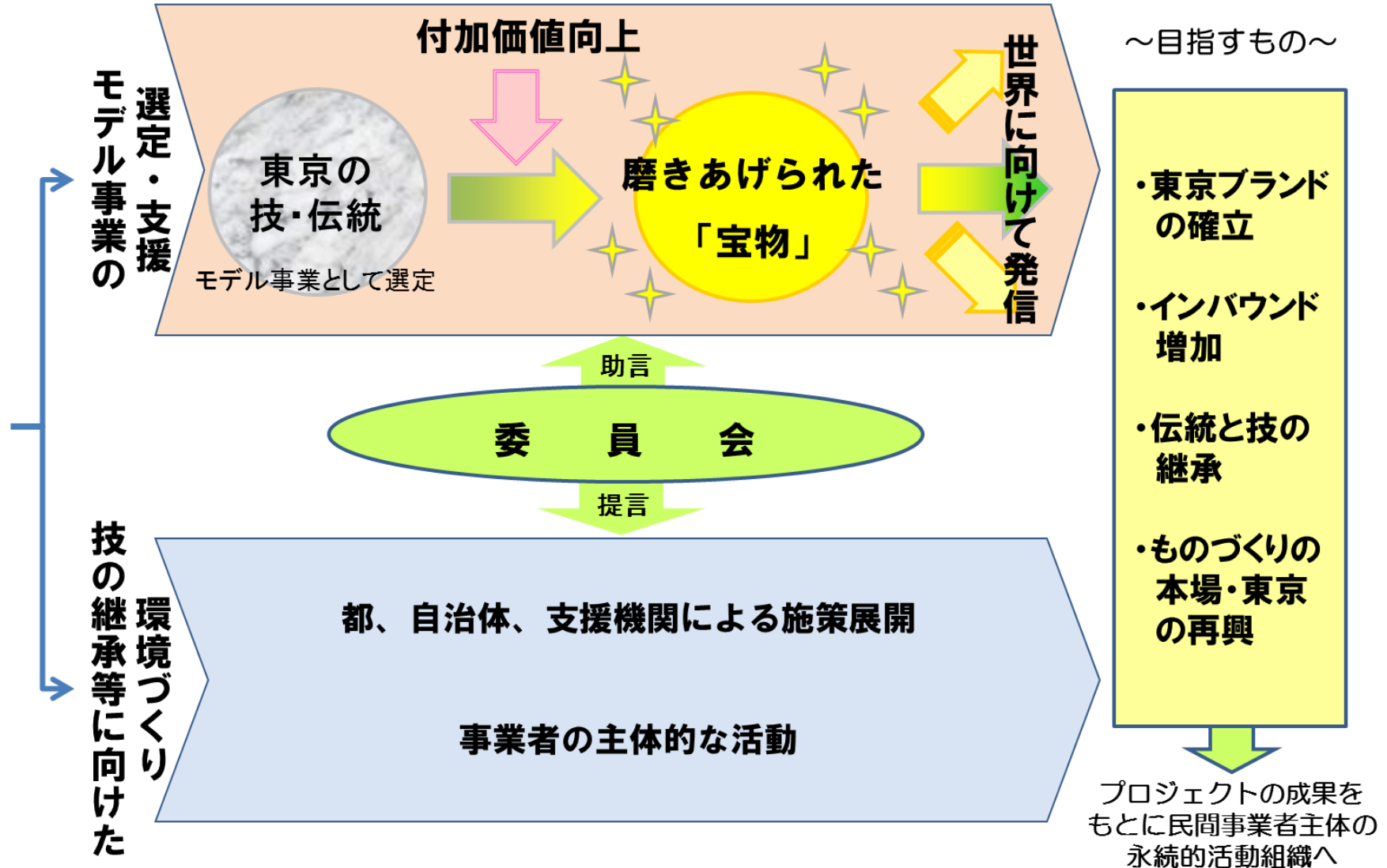
- 新たなものづくり等の発信を通じた「MADE IN TOKYO」ブランドの確立
- 伝統と技の次代への継承、ものづくりの本場・東京の再興

「宝物」のコンセプト

- 長い年月をかけて受け継がれてきた高度な技術や独自の感性に貫かれ、時を超えて愛されてきた
- 豊かな生活、美しい暮らしの期待に真剣に向かい合い、極めてきた職人の「ものづくりの精神」に溢れている
- 伝統の技を受け継ぎながら、創造と革新により“きらりと光る”新しい価値で未来とつながる
- 日本人の独自の感性や美感、江戸から続く生活・文化の素晴らしさが世界に広がる

プロジェクトの取組及び全体像

《2つの軸で展開》



Ⅱ 意見交換

1 モデル事業選定の視点

2 モデル事業の支援方法

(1) 磨き上げ支援

(2) 発信支援

モデル事業の選定～支援の流れ

公募

5～6月

審査

7月

決定

8月

支援

8月～

○意欲ある老舗企業等による海外展開や新事業展開の取組を**公募**

○国内外のニーズに精通した有識者による**選定委員会**を設置し、審査によりモデル事業を選定

《選定委員会メンバーのイメージ》

- 各分野のプロフェッショナル
ブランディング、ファッション、
マーケティング、バイヤー など
- 外国人の視点

○選定件数：**5件程度**

○モデル事業選定後、**3か年**にわたり磨き上げや発信の場の提供等の支援を実施

○今年度は伝統的工芸品月間国民会議全国大会にあわせ、**11月に発信イベント**を開催

《発信イベント（案）》

- 平成29年11月3～6日 丸の内エリア
- 実施内容（検討中）
 - ・「宝物」の展示
 - ・制作実演やアトラクション企画
 - ・海外著名人からの講演
 - ・海外に挑戦する職人との交流・意見交換
 - ・PR動画による発信 など

1 モデル事業選定の視点（案）

公募の条件

- ①生活・文化に関わる
ものづくり分野
- ②海外展開、新事業展開
の計画と意欲
- ③概ね百年以上続く技術
や伝統
- ④新しいアプローチを
目指した取組

※他分野との連携の取組
も対象

選定の視点（案）

- ①「宝物」のコンセプトに合致
するか
- ②国内外における市場可能性
- ③東京ブランド牽引役としての
革新性・創造性
- ④事業者の取組意欲
- ⑤事業計画、実施体制の妥当性

2 モデル事業の支援方法（案）

(1) 磨き上げ支援

- プロジェクト推進委員を中心とする少人数による
助言チームをモデル事業ごとに組成
- 事業コンセプトの整理、ブランディング戦略などを個別にアドバイス
 - ・必要に応じてコーディネーター役を配置
- 事業者のニーズに応じ、交流の機会提供、勉強会等を企画・実施
- 委員会事務局が窓口となり、既存支援策の案内、支援機関への橋渡しなどを実施

2 モデル事業の支援方法（案）

（2）発信支援

○助言チームによる、**プロモーション戦略、出店戦略**等のアドバイスを適宜実施

○伝統的工芸品月間国民会議全国大会にあわせた**発信イベント**の開催（29年11月）

○**海外向けPR動画**の制作と都の各種広報媒体・イベントを活用した**広報活動**

※平成30年度以降の発信方法
※売場の確保（国内・海外）

} 今後さらに検討

Ⅲ 技の継承等に向けた提言の方向性について

(説明／次回議論)

技の継承等に向けた環境づくり

○事業者の主体的な取組の促進や、都・支援機関等の施策展開の方向性について委員会が提言

課題整理・議論

4～8月

- 各委員の意見を踏まえ、検討を進めるべき課題を整理（事務局）
- 提言（案）について、次回議論し、委員会の提言としてとりまとめ

提言

具体化の検討

様々な分野の事業者が、今日的課題を克服し、新たなチャレンジが可能となる環境を整え、モデル事業の効果を波及させる

これまでの議論で出た課題

- 現代のライフスタイルに合わせたものづくり
 - ・ 伝統の技が現代の生活に活かされていない
 - ・ 新しい取組に消極的な作り手も少なくない

- 次代を担う職人の確保と育成
 - ・ 職人不足は深刻
 - ・ 子供の体験の場、長期教育プログラムがない
 - ・ 技の継承のための費用が捻出できない

- 認知度・発信力の向上
 - ・ 外国人が見れば日本の普段の生活の中に魅力的なモノは多いが知られていない
 - ・ 個々のアピール力が足りない

- 経営資源・資金不足への対応
 - ・ 時代の変化にあわせた経営改善が図れていない
 - ・ 新事業展開にかかる資金力が不足

4つの課題を柱に提言をとりまとめ

今後のスケジュール

